

第2回大竹市地域公共交通活性化協議会

記 録 票

日時：平成20年8月4日（月）
午後1時30分～
場所：大竹市役所 3階大会議室
出席者等：別紙「名簿」のとおり

1 開 会

2 あいさつ（会長：小田）

「市民による市民のための公共交通機関」ということで設立された会ですが、「市民ばかりが熱心でもダメ」ですし、「行政ばかりが熱心でもダメ」ですし、また「事業者ばかりが熱心でもダメ」だというふうに思います。

この会はこれら三者を取りまとめながら、大竹市の市民のために、本当により良い公共交通を実現させるべく発足したものと確信しています。

ぜひ皆様方のご協力をいただきながら、本会が成功し、また持続していくよう努力していきたいと思っております。

※ 委員の就任等について 【国土交通省中国運輸局広島運輸支局 富田氏（変更）】
【有限会社大竹タクシー 山本氏(就任)】

3 議 題

○大竹市地域公共交通総合連携計画策定業務について

- (1) 経過報告（受託業者の決定等）

【資料1「経過報告」により、事務局（香川）説明】

⇒

質疑・意見等なし

- (2) 業務計画書の概要

【資料2「業務計画書」により、(株)地域未来研究所（田中所長）説明】

⇒

質疑・意見等なし

- (3) アンケート内容

【資料3「アンケート調査について」により、(株)地域未来研究所（田中所長）の説明】

質疑1（大原委員） バス利用者アンケートは、回収率が低くなるのが懸念されるが、見直しはどうか？

回答1（田中所長） これまでの当社実績から申し上げれば大丈夫だと思う。配布時に身分や主旨を明らかにするなどの配慮は必要であるが、一定数の回答を得る

ことはできる。回収率は地域性もあるが、概ね3割程度は得られると考えている。

質疑2（富田委員） 郵送とバス利用者として対象者が重複する場合はどのように扱うのか？

回答2（田中所長） 基本的には両方に回答いただきたいと考えている。いずれかを優先させる必要があるれば、「依頼文」にその旨を記述して対応したい。

質疑3（賀屋委員） 例えば高齢化の進んでいる高台の団地など、ニーズが高いと思われる地区を重点的に行う方法が良いのではないかと。さらに、自治会の協力を得るなどして、自家用車や免許がないと思われる世帯へ配布してはどうか？

回答3-1（事務局） まずは全市的な傾向を把握したいと考えている。極端に偏った抽出をすると、傾向が把握できないので、今回は広く様々な市民の声を聞くこととしたい。

ただし、地域別に層化抽出することにより、極端に配布部数が少なくなる地域のうち、栗谷地区や松ヶ原など（生活路線が必要な地域）については、一定量の回答が得られるよう配慮する考えである。

回答3-2（田中所長） ニーズが高いと思われる地域の意見等については、「ワークショップ」で伺う機会を設けることも可能であり、フォローしていきたい。

【アンケートの最終案については、事務局に一任することを確認】

○「市民交通体系調査プロジェクトチーム報告書」について

【「同報告書」により、事務局（香川）説明】

質疑1（大原委員） 市職員として伺うが、この報告書を読まれての感想や意見を伺いたい。

回答1（田中所長） 非常に水準の高いものだと思う。特に課題について、通常コンサルが考えるよりも市民に近い視点で考えて、何ができるかを検討している点が非常に興味深い。

意見2（富田委員） この報告書もふまえながら、今回策定する総合連携計画では、より斬新な計画となるよう期待している。

回答2（田中所長） これまで関わってきた事業や先進地の事例などもふまえながら、新しいアイデアを盛り込んでいきたいと考えている。

集約（小田会長） 連携計画の策定が、行政や本会の自己満足のためでなく、本当に市民のためのものとなるよう、取り組んでいただきたい。

4 その他 特になし

5 閉 会

次回：10月上旬に開催の予定